

第三者所感



株式会社トーマツ環境品質研究所
代表取締役社長
榎 宏(公認会計士)

このたび株式会社クボタの「環境報告書2004年版」(以下「環境報告書」という)を拝見すると共に、本社ならびに工場における環境保全活動の見学、従業員の方への質問等に基づき、株式会社クボタの環境保全活動について、第三者としての所感を述べさせていただきます。

1. 環境経営への取り組み

環境保全への取り組みは「クボタ地球環境憲章」に基づき「クボタ環境推進中期計画」を策定され、様々な環境側面に配慮した非常に充実したものと思われます。特に法規制遵守の徹底、ゼロエミッションへの取り組みなどは堅実な企業姿勢が感じられます。

今後、更なる環境経営の推進のためには、グループ全体の事業戦略における環境というファクターの位置づけをより明確にし、持続可能な発展をビジネス戦略に統合するために、財務的・経済的指標を用いて、具体的なビジネス・ケースを示すことも必要と思われます。また、このような戦略を実践するためにはグループ全体の環境マネジメントの強化も必要と思われます。

2. 工場における環境保全への取り組み

今回は、鋳鉄管など鋳物製品を製造している工場と農業機械等を製造している工場を見学させていただきました。両工場ともISO14001を取得され環境マネジメントシステムが日常業務に定着していることが随所に見受けられました。特に廃棄物の削減や省エネ対策など環境保全と経済的貢献を両立させる取り組みは、工程改善など現場からの提案が積極的に行われて

いる成果だと思われます。また、緊急事態対応手順などは各現場に写真付などでわかりやすく明示されており、工夫されていることが窺えました。

3. 環境会計

環境会計は環境省の「環境会計ガイドライン(2002年版)」に準拠して集計され、環境保全コスト、環境保全効果及び経済効果の増減について簡潔に説明されており、外部報告目的としては一定の評価はできます。今後は、環境会計を「事業の存続と持続的発展に不可欠な環境経営のツールや指標」として位



置づけられているとおり、環境と経営を両立させるため、経営資源の配分に関連して将来の環境コストの支出額をどのように考えているか、環境保全を積極的

に推進していくため、具体的に管理面でどのように利用されているかなどを開示されてはどうか。

以上

※本所感は環境報告書に記載されている情報の正確性に関する第三者としての意見表明を行うものではありません。

SRI(社会的責任投資)・エコファンド

当社は米・ダウジョーンズ社の「DJSI」、英FTSEインターナショナル社「FTSE4GOOD」、モーニングスター「SRI株価指数」等に採用されています。



当社株が組み込まれている国内の主要エコファンド等

ファンド名
日興エコファンド
グリーン・オープン(ぶなの森)
UBS日本株式エコファンド(エコ博士)
エコバランス(海と空)
グローバル・サステナビリティ